

令和5年度 都留市文化財審議会
(第2回会議)
資料 3

「鍛冶屋坂天神社石灯籠調査報告」

○鍛冶屋坂天神社石灯籠調査報告

資料 3

調査日：令和5年12月27日

調査者：金子氏、小佐野氏（都留市文化財審議委員）
知念、福島（都留市教育委員会）

調査地：鍛冶屋坂天神社（都留市下谷1772）

【調査に至る経緯】

- 令和5年6月29日（木）に開催した都留市文化財審議会第1回会議において、谷村天神社の石灯籠について都留市の文化財指定をしてはどうかとの提案があった。
- それに伴い、石灯籠の歴史的経過や現状の確認を文化財審議委員同行のもと行った。

【石灯籠の歴史】

- 森嶋其進が『甲斐国志』の編纂を行っていた文化十年、朋来園の門人たちが大願成就を願い、天神社に石灯籠一対を建立した。
- 『都留市社記』によると、当初の石灯籠の位置が石門柱より第一石段十六段のところあったと記載されている。
- 灯籠には正面に「献燈」、右側には「世話人長田弥助三沢新右エ門」、左側には「文化十年癸酉十月」、裏に「願主森嶋其進門人中」と彫られている。

【石灯籠の現状】

- 建立された当初は一対あった石灯籠であるが、現在は右側片方のみとなっている。
- 石灯籠の位置は設置当時と異なっており、現在は県道沿いに位置している。
- 内藤恭義氏『甲斐国志編纂に輝く森嶋弥十郎其進』において石灯籠の反対側に灯籠の基部だけが残っていると指摘されているが、現在はその基部らしきものが消防団小屋右横のスペースに置かれている。
- 石灯籠の片方が紛失した時期は不明で沢に落ちているとの伝承（金子氏談）があったが、現在も見つかっていない。



【結果】

- 森嶋其進の功績に係る貴重資料ではあるが、完全な状態でないことを考慮し、現状指定を行う予定はない。
- 令和5年度に森嶋其進に係る展示を実施したため、其進に係る地域資源の掘り起こしは今後も進めていく。